

東京大学

男女共同参画加速のための
宣言

2009年3月3日

A stylized graphic in the bottom right corner consisting of several overlapping, fan-like shapes in orange and blue, resembling a stylized flower or a modern logo element.

宣言

東京大学は、男女共同参画を加速するため、「U7 “男女共同参画”に係る共同宣言」(2008.10.1)に基づき、以下のとおり行動する。

1. 教員・研究員を公募する際に、女性の応募を歓迎する旨を明示する。
2. 公正に行った評価に基づき、女性研究者を積極的に採用する。
3. 仕事と生活の調和を目指し、公的な会議は原則として17時以降行わない。

2009年3月3日
東京大学



《経緯と目的》

東京大学では、「東京大学アクション・プラン2005-2008」の2006年改訂版において「次世代育成支援及び男女共同参画のための環境整備」を掲げています。その中で、本学の女性研究者の割合が低いことを鑑み、優秀な女性が研究者への進路を選択し研究継続することを促進するための全学的かつ包括的な支援や取組が必要であるとしています。

2008年5月現在の東京大学常勤女性研究者の割合は9%と、世界トップレベルの諸大学に比べて極めて低く、女性研究者の参画加速が必要な状況にあります。2007年に採択された文部科学省科学技術振興調整費事業「東大モデル“キャリア確立の10年”支援プラン」では、2010年3月までに常勤研究者の女性採用比率を25%以上とする等の数値目標を定めました。

また、2008年、学士会館にて開催された「七大学男女共同参画・女性研究者支援部門合同シンポジウム」では、七大学の総長が列席し、「U7“男女共同参画”に係る共同宣言」を発表しました。この共同宣言の理念に基づき、東京大学では行動に移すための宣言を作成することにしました。

東京大学は、機会均等に根ざした豊かな多様性を確保することにより、時代の先頭に立ち世界の知の頂点を築くことを目指しています。その一環として、「男女共同参画加速のための宣言」を行い、3つの項目を実行することにより、女性研究者の活躍を加速していきます。

U7“男女共同参画”に係る共同宣言

我々は、アカデミアの中核的総合拠点として、世界をリードする創造性に満ちた学術研究の達成と、広い視野と多様な視点で課題を解決する国際性豊かな人材の育成により、真に平等で豊かな、そして未来へ永続する社会の構築に貢献する責務を負っている。

この21世紀において、我々アカデミアの最重要課題は、人類が直面する地球環境・エネルギー資源・民族・社会格差等の問題の解決と持続可能な社会への転換である。この歴史的転換点において、国籍・人種・性別・年齢等を超えた、多様で優秀な人材の参画と活躍が必要である。我が国における高等教育、学術・技術の発展は、長らく男性が主たる牽引役を担ってきたが、前述の最重要課題の解決、および最先端研究・教育水準のさらなる向上に向けて、国際化と共に男女共同参画の推進が不可欠である。優れた女性研究者が男性研究者とともに活躍できる環境の整備は、アカデミアがより豊かな知の創造をもって人類社会に貢献するために必須であると同時に、次代を担う若人にとって、魅力あるものとなるであろう。

我々各大学は、男女共同参画社会の実現に向けて、これまで学術分野における男女共同参画の推進のために、様々な意識改革、女性研究者の活用、キャリア継続支援、保育園等の就労環境の整備、次代を担う女子中高校生へのキャリアガイダンス等に意欲的に取り組んできた。また、我が国の政策においても、女性の積極的活用による高度な科学技術研究の発展を目的とした「第3期科学技術基本計画」が平成18年3月に決定され、女性研究者がその能力を最大限に発揮できるように研究と出産・育児等の両立に配慮した制度の拡充、さらに自然科学系全体として女性研究者の採用を25%とする数値目標の設定と、その目標の達成状況の公開など、女性研究者の積極的採用に向けた取組の推進が盛り込まれた。しかし、平成20年4月の内閣府男女共同参画局の「女性参画加速プログラム」で重点的取組が必要と指摘されたように、研究者は依然として「女性の参画が進んでいない分野(公務員、医師、研究者)」の一つである。

我々は高度研究教育機関として、人々の考え方や社会制度のあり方に多大な責任を負っている。同時に、男女共同参画社会の実現のために大学が負っている重大な責務を自覚し、“公正な評価に基づく女性研究者の積極的登用”等を含めた施策に英知を絞り、その実施に向けて真摯に努力する。

アカデミアの自由な発想に基づく研究は多様性を育み、その多様性は優れた財産として、世界中から能力のある将来有望な人々を惹きつけるであろう。斬新な視点、多様な基盤を持つ才能ある人々が集い、それぞれの能力を存分に発揮できる環境においてのみ、知の担い手としてのアカデミアの使命が達成できると信じる。

2008年10月1日

北海道大学総長 佐伯 浩／東北大学総長 井上 明久
東京大学総長 小宮山 宏／名古屋大学総長 平野 眞一
京都大学総長 松本 紘／大阪大学総長 鷲田 清一
九州大学総長 有川 節夫

(社団法人学士会提供)

